



会長 熊谷敏明
 幹事 菅原慶一
 会報 氏家良典 江川元徳
 佐藤幸一 飯塚仁哉
 例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2596回例会 2017. 5. 18 No.40

本日の出席率

・本日の出席率 98.2%

ニコニコボックス

- ・菅原慶一幹事 武川毅会員のスピーチ担当、ゲストスピーカーのスピーチに期待します。
- ・鈴木彦太会員 武川毅会員のスピーチ、楽しみに大いに期待申し上げます。
- ・布施孝之会員 武川毅会員のスピーチを楽しみに。
- ・村上武彦会員 武川毅会員のスピーチに期待して。
- ・千葉吉男会員 武川毅会員のスピーチに期待して。
- ・菅野幸一郎会員 武川毅会員のスピーチにご期待致します。
- ・菅原文之会員 武川毅会員のスピーチを歓迎して。仙台RC80周年記念式典参加を始め、各方面軍の方々ご苦勞様でした。
- ・猪股育夫会員 武川毅会員のゲストスピーチ、保護司 大沼えり子さんを歓迎して。宜しくお願いします。
- ・布施孝尚会員 武川毅会員のスピーチ楽しみにしています。
- ・及川富男会員 武川毅会員のスピーチに期待します。
- ・伊藤幸子会員 初夏の季節を感じます。本日のスピーチ楽しみにしています。
- ・佐々木崇会員以下 ゲストスピーカーを歓迎して。山田直志会員 佐竹孝行会員 佐藤静市会員 佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 高橋利光会員 山田正会員 小野寺伸浩会員 富士原裕子会員 武川毅会員 及川昭宏会員 岩淵栄市会員 佐藤早智子会員 千葉正宏会員 佐藤哲弥会員 以上、ありがとうございます。

会長要件 高橋利光副会長

本日、熊谷敏明会長が例会欠席のため、会長よりお

預りしております会長要件を代読させていただきます。
 本日は、東京で会議があり欠席させていただきます。高橋利光副会長に代理で会長要件をお願いいたしますので、よろしくお願ひ致します。

先週の例会終了後に、第11回理事会が開催されました。10名の理事全員とオブザーバー1名の11名が出席いたしました。その中で、創立60周年事業並びに財務改善検討特別委員会の答申に基づき、会費について協議をいたしました。その結果、全員一致で次年度から年会費を16万円から18万円に値上げするということになりましたので、お知らせいたします。

今年度、会員2名がお亡くなりになり、また2名の方から退会の申し出がある中で、会費を値上げしても財務内容改善にどれだけ効果がでるか、不安な部分はありますが、次年度執行部の努力により、60周年事業の準備に向けて一歩踏み出ささせていただくことを期待申し上げます。

さて、5月13日には、ホテルメトロポリタン仙台で、仙台ロータリークラブ創立80周年記念大会が開催され、当クラブから総勢11名で参加してまいりました。記念式典の後、記念コンサートとしてソプラノ歌手 砂川涼子さんと仙台フィルメンバーによるアンサンブルがありました。また、懇親会では、金沢ロータリークラブ提供で、金沢主計町芸妓衆による舞踊も披露されました。外は大荒れの天候でしたが、会場内は大いに盛り上がりしました。

来週の例会は、プログラムを変更して、サウスレイク市長訪問団の歓迎例会を行います。例会の進行が一部変わりますが、どうか多くの会員に参加いただきますよう、お願いいたします。

幹事報告 菅原慶一幹事

・濱守豊秋ガバナーより
 2016-2017年度表彰について
 表彰は5月28日(日)地区研修・協議会終了後行う。

・登米市倫理法人会より
 「倫理経営講演会」のお知らせ
 日時 5月22日(月) 18:30~20:30
 場所 ホテルニューグランヴィア

今週のスピーチ

「保護司として」 作家 大沼えり子様

私は2001年の12月から東北地方と北海道の県立少年院に向けて、院内放送といって少年院で社会復帰のために頑張っている子供達を応援するという意味をもちましてDJ放送を1ヶ月に1回1時間の番組を16年に渡って送り続けております。月に1回のこのDJ放送を子供達がとっても楽しみにしております。

私がなぜDJ放送を少年院などに送ることになったかと言うことで、先ずは、2001年の11月に私が保護司の委嘱を受けたところから始まります。私は名取にお嫁に行き子供を2人もうけることが出来ました。子供が小学校1年生の時に、お友達がいっぱい遊びに来てくれました。子供達がたくさん来てくれる家というのが私の夢でしたので、とても嬉しかったのですが、その中で、息子の友達で1人だけとても変わった子がおりました。その子はお父さんがおらず、お母さんが心の病という家族に恵まれない子で、ご飯もほとんど食べることが出来ない状態でした。その子はいつも私から離れないでそばにいました。いつも私の作ったケーキ等を食べ、私の家に来るのを楽しみにしていたその子が、ある時、いなかった日がありました。

息子とその子が、私の家に来ていたある友達の家遊びに行くとすることで、今まで私について離れなかったのにやっと少し親離れしたかなと喜んでいた私のところに、間もなくすごい勢いの嵐がやってきました。お友達の家のお母さんと子供とその弟さんが、息子と一緒に来た子たちが一緒に帰って来ました。そのお母さんは「お宅では子供達をいっぱい集めていますが、泥棒だということを知っていますか」というご挨拶でした。よく話を聞いてみますと、家庭に恵まれていない子が、遊びに行った家の弟のおもちゃをとったと言うことでした。私は一緒にあやまるのであやまろうと、あやまることを強要しました。しかしその子はあやまろうとしませんでしたので私はその子を排除しました。しかしながらその後、その排除した子供が毎日家の中には入らないのですが、門の外に立っていたことを知りました。息子と1年生の子供たちに「お母さん、どうして許してあげられないの？あの子は遊びたくて毎日、毎日門の外まで来ているのに」とものすごい勢いで喰いつかれました。その小学校1年生の子供達に人を許すことの大事さを教えられました。そして、そうだなと思ってその子を家に招き入れました。その時、その子に「おばちゃん、ごめんなさい、もうあんなことしないからもう一度家の中に入れて下さい。でもね、おれ、あれ、とったんじゃないよ、弟ちゃんがくれると言ったんだもん。だから貰ったんだよ」と言われました。私は自分の犯した罪を、こんなに親っていた小学1年生の小さな、やっと自分の味方があって、自分にご飯を食べさせてくれる人がいる、大好きだったおばちゃんに裏切られたその子の心の傷を痛い程感じて、どうしたらよいか分から

なくなったことがあります。謝っただけではすまないと思いつつも、謝ってその後は一生懸命えこひいきすることなく接してきたつもりでしたが、やっぱり心の傷はなかなか癒えるものでないということが分かりました。

中学校になった頃から、その子がどんどん非行に走っていく姿、制服はボンタン、髪の毛の色が変わり、耳、鼻にピアス、そのうちに制服を脱ぎ捨て特攻服になり、通るたびにシンナーの臭い、その姿を毎日見送る私は、あの時ちゃんと対応していればこうならなかったと毎日心が痛んでおりました。

もう一度うちに来て「おばちゃん、このケーキおいしい、おばちゃん大好き」とにこにこ笑っていた笑顔にもう一度会わなければ、私はこのまま死ぬことが出来ないと思う程私も傷つきました。そんな時、保護司の話があって、43歳の時に保護司の存在を知りました。これなら、あの非行に走った子に関わることが出来る、これなら何か力になって助けてあげることが出来るかも知れないと思って、息子、娘に相談したら、あの子を助けることが出来るのは、お母さんだけかも知れないので引き受けるように言われ、家族に背中を押されて引き受けました。

ちょっとした人生の迷子になった時に、自分が岐路に立った時に、誰かが手を携えてあげれば、非行や犯罪がなくなるのだと言うことを体験しつつ保護司をやらせていただいております。そして、私が傷つけてしまった少年も看護することが出来ました。一緒に幸せになろうと泣きながら頑張ってきた。彼は今は寿司屋の店長として働いております。その道のりは辛いものがありますが、一人よりは二人、二人より三人、その力と言うものがとても大きいということを知りました。その一つの力になればと思いながら保護司の活動を16年間やらせていただいております。これまでたくさんの少年や大人の方たちが家族の一員になってくれております。

保護司の仕事は、法務省の方で、悪いことをした人をかばうというイメージがあり、社会ではあまり表に出ないようにと言うのが、以前の保護司法でしたが、11年前に保護福祉法が改正され、やはり、保護司だけではなく、地域でそういう人達を支えなければいけない、だから保護司の活動をもっと社会に啓蒙して理解していただき、助けていかなければならないので、皆様は是非とも就労の手助けをお願いしたいと思っております。

— 以下、紙面の都合上割愛させていただきます。



スピーチをする大沼えり子様